

信用金庫



特集 空き店舗を活かして地域の価値を高めよう

空き店舗・空き家を活用し空き店舗
 地域の活性化に貢献する名産品とエリアマネジメント
 チャレンジショップ「T・J」の軌跡

12
 2017 December

信用金庫 月刊「信用金庫」

田舎の力が未来をつくる！ ヒト・カネ・コトが持続するローカルからの整率

金丸 弘美 著



合同出版
 1,600円＋税

その昔、どのジャンルにも収まりきれない鬼才が、自ら「僕」の職業は寺山修司」と言っていたとか。二十数年、初めて本書の著者を知った頃、やはりこの人も「職業は金丸弘美」だと思えた。芝居、映画に関することから、アート、祭り、唐津くちり、葬式に関すること、宮武外骨に関すること、メザカ、クマノズミに関すること、およそありとあらゆる方面に寛容な好奇心

を示しては、八面六臂の活動を展開していた。その間に垣根はなかった。ライターとしてのみでなく、プロデュース、プランナーとしてコトアインテクトとしての活躍もあった。その頃から、持ち前の旺盛な行動力と積極なフットワークで全国津々浦々を歩き回った。足を存分に使い、五感をフルに動かして成果を上げた。

「環境」「地域振興」関連のテーマに取組んでいく、行く先々でも取材しては現場に閃き、自らも実践した。あたかもミツパチのごとく、異なる地域の文化をひとつくわいの誕生を手

を獲した。ときにアドバイザーともなり、講演につながり、いつかの大学で教鞭をとり、人材の育成にも精出す日だ。かくて今、食総合プロデュース、食環境ジャーナリストとして一家を成す。食を軸にした地域再生のテーマは、晩年のフットワークと五感が探り出した著者のライフワークであり、金丸弘美といふ職業の到達点なのではあるまいか。ネットを開き、雑誌をめくれば「グルー」情報はに事欠かない。だが、その情報は金丸氏の本にはある。確かに、大膽を自らの道で踏み、自ら五感で見つけたものを発信する金丸スタイルが芯をのびるのだろう。彼の本はいつか皆の共感を呼び、広く読まれるようになった。

本書は、「アグリフットリズム」というイタリヤにおけるムーブメントの現況報告が冒頭の章をなす。世界各地から客を集めるその地域には、非常に優れた農家民泊の仕組みがある。ご当地ならではの食とともに生産があり、人々の日常があり、観光があり、単なる観光スポット、観光施設ではない。変質のない中山間地が今、世界から多くの客を招いているのだ。地域は「食」を中心に活力を生み出した。これを「田舎の力」だ。「田舎の力が未来をなす」と聞かされている著者ごとの地を訪れ、体験を重ねた。以下の章では日本国内各地の成功事例が多く取り上げられ、これまた読み興味深い。

金丸氏がめざす「食」を軸とした地域再生。これは人間の五感に対する信頼を、いまま一度感じる世界から取り戻そうという「人間回復」の営みなのかもしれない。それを、希求する人々にと、本書もまた読まれることだろう。（小口達也）